

## 中国の汚染紙ナプキン報道について検証する？！



渡辺洋子

総会の席で、『「中国の紙ナプキンから大腸菌や結核菌などが検出された」という報道について古紙ネットに問い合わせがあった。』という報告があった。その場では、その報道について知っている人はいなかったため、運営委員会で古紙製品を進める立場としてその報道の経緯や信憑性、そういうことが起こりえるのか真偽を調べてみることとなった。

まず、ネット上(Google)で検索してみると「中国 紙ナプキン 大腸菌 結核菌」で約12,700件もヒットした。とりあえず、上位10件程度を開いてみると、そのどれもが下記の読売新聞報道から引用したHPやブログであった。それにしても、報道から1ヶ月程度であつという間にネット上でさまざまな不安や憶測が飛び交っている現在の情報社会に驚いた。

YOMIURI ONLINEより転載: [http://www.yomiuri.co.jp/iryuu/news/iryuu\\_news/20070610ik04.htm](http://www.yomiuri.co.jp/iryuu/news/iryuu_news/20070610ik04.htm)

### 中国「食」の不安拡大...紙ナプキン ゴミ流用 ようじ回収、再包装 地元紙報道

【北京＝佐伯聡士】食品の安全性に対する信頼が揺らいでいる中国で、レストランの紙ナプキン、つまようじなどに潜む様々な病原菌が健康を脅かしていることが分かった。中国の有力紙「南方週末」が、中国調理協会が2006年に行った調査結果などをもとに伝えた。

同紙によると、規定では、紙ナプキンにはいかなる回収紙も使ってはならないが、実際には、低品質のナプキンに回収したゴミを漂白したものが流用されていた。製紙工場に10年勤めた男性は、「原料の中には、使用済みの生理用ナプキンや病院が廃棄したガーゼもある」と証言。恐ろしいのは色つきの紙ナプキンで、漂白剤すら使わず、ゴミを着色してごまかしただけのものがあり、大腸菌や結核菌、肝炎ウイルスなどが検出されたという。

低価格のつまようじも、状況は同じ。 以下省略 (2007年6月10日 読売新聞)

と、いうことで、日本での情報源は読売新聞であった。しかし、報道内容を見るとすべて中国の新聞「南方週末」からの引用であることがわかる。そうなると報道の信憑性をどこまで追求できるか難しいのだが、「南方週末」のそれらしい記事をネット上で見つけた。URLは <http://www.nanfangdaily.com.cn/zm/20070607/xw/ms/200706070023.asp> 中国語のみのサイトではあるが、興味のある方は要検証です。中国調理協会のHPは探せなかった。(信憑性は引き続き調査中)

日本の古紙製品において、そういうことが起こりうるかどうかの確認に古紙再生促進センターを訪問した。(7/20) 新聞報道は大まかに知っておられたが、全く自分たちと関係のないところでの問題と捉えている様子であった。日本ではあり得ないことであり、製紙工程がどうこうという以前の問題として、「回収した古紙は問屋さんがきちんと選別をしているのだからそのような不衛生な物が入るわけがない。」ということである。また、日本から中国などへ輸出する古紙においても、同様にそのようなものが入る心配はないと～。また、古紙製品が病原菌に汚染されるなどということも前代未聞のことであり、考えられないという様子であった。確かに、日本の古紙の品質は、世界的に見てもトップレベルではあるとは聞いている。

日本においてはあり得ないようなことが、中国で起こっているのかどうかはわからないが、折しも「段ボール入り肉まん」報道がねつ造であるとかないのかももあり、ますます報道の信憑性が気にかかるところである。信憑性はともかく、中国から紙製品、今回は特に紙ナプキンなどが輸入されているかどうかにも気になるところである。とりあえず、実際に出回る可能性のありそうな「100円ショップ」の紙ナプキンを調査してみたが、店頭に並んでいた11種類の紙ナプキンの全てが日本製のパルプのものであった。

日本製紙連合会は「食品に接触することを意図した紙・板紙の自主基準」を制定しました。10月より施行ということです。詳細は日本製紙連合会ホームページを参照下さい。